

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈1月17日（金）放送分〉

テーマ「奄美群島12市町村の伝説・昔話」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、毎月第3金曜日にお届けしている、奄美の伝説や昔話などを紹介する「奄美群島12市町村」シリーズの第10回目、大和村の昔話「蛙と啄木鳥と雀」です。

蛙と啄木鳥と雀には、それぞれ親孝行^{おやこうこう}についての昔話がありました。

あるとき、雀のところに「親が病気だ。」と遣いの者がやってきました。雀はそのとき紬^{つむぎ}を織っていましたが、「これはしまった。」と言って、破れた着物を身につけたまま、作業着も着たまま、織物で使う糸の輪まで首にかけたまま、あわてて親の見舞いに行きました。雀の親はまだ元気があったので、雀は親孝行ができました。

また、啄木鳥は親がこう言えばああ言う、ああ言えばこう言う、普段からいっさい親の言うことを聞きませんでした。遣いの者が「お母さんの命が危ないですよ、今夜までか、明日までか、いつまで命がもつか分かりませんよ。」と紬を織っていた啄木鳥に言っても、「いや、この紬を織って着ていくんだ。」と、紬を織るのを止めませんでした。啄木鳥はその後も紬を織り、織り終えた着物を着て、三日か四日遅れて親のところに行きました。きれいな赤い「うちくい」という大きな布を頭にかぶって親のところに行ってみると、もう親は死んでいて、会うことはできませんでした。

そして、蛙はと言うと、親が「それはこうするものですよ。」と言うと「違う。」と言い、「あれはあんな風にするものですよ。」と言えば、「違う、こんな風にするんだ。」と言って駄々^{ただ}をこねたり、親の言うことの反対ばかりしたりして、手に負えませんでした。そこで蛙の親は、この子はもう、当たり前のことを言っても、言うとおりにしないはずだから、今度は反対のことを言ってやろうと思って、死に際^{きわ}に「私が死んだら、川の下流近くに埋^うめてくれよ。」と言いました。ところが、蛙はこのときばかりは親の言うことを聞いて、親の言うとおりにしました。すると、川の下流近くに親を埋めたものですから、雨が降るたびに、川の水が増えて、埋めた親が流されてしまわないかと心配になり、泣くようになりました。

さて、雀と啄木鳥と蛙のそれぞれが、親孝行をしたと思っていたところに、神様から遣いの者がやってきました。遣いの者はそれぞれに神様の言い付けを述べました。

まず雀には、「お前は、親孝行をしていたから、米の倉に巣を作って住み、倉の下近くで米を拾い食べて暮らさなさい。」と言い付けました。

次に啄木鳥には、「お前は、親孝行をせずに、きれいな格好ばかりしていたから、

山の木をつついて虫を獲^とり、一つは天に上^{じょうのう}納し、一つは地に上納し、残る一つを食べて暮らしなさい。」と言い付けました。

最後に蛙には、「お前は、いつも親に駄々をこねて文句ばかり言っているし、蛙のお前が文句ばかり言っていたのでは、いつになっても天気は良くならない。だから、雨が降るときに、親を埋めた川の下流近くの地面が流されはしないかと、心配して泣きなさい。」と言い付けました。

だから今でも、雀は米の倉に落ちている米を食べ、啄木鳥は木をつついて虫が十匹いたら、虫が逃げたり落ちたりするので一つか二つしか獲ることができず、蛙は雨が降ると鳴くようになったそうです。

さて、みなさんは「親孝行」という言葉からどんなことを思い浮かべるでしょうか。昔も今も、親は子のことを思い、子は親のことを思いながら生きてきました。

いっぽう、「親の心子知らず」や「子の心親知らず」ということわざにもあるように、お互いになかなか理解できない、近くて遠い関係でもあります。

さきほどのお話では、雀が一番「親孝行でよい子」ということで、神様からおいしいごほうびを与えられました。確かにその通りだと思いますが、なぜか蛙にも同情してしまいます。普段は親と反発ばかりして言うことを聞かなかったけれど、最後の最後に親の言うとおりに従い、そのことで雨が降るたびに余計な心配をしなければならなくなった蛙…。土に眠る親を案じ、降りしきる雨の中、悲しみの涙を流す蛙…。だんだんせつなくなってくるのですが、みなさんはどう思われるでしょうか。

このような動物の習性や生活の仕方に即した昔話は日本だけでなく、世界中にあります。今回は「親孝行」という視点によって、それに応じた神様の言い付けがうまくそれぞれの動物の習性を表していました。

さて、このように奄美図書館には、面白いお話を紹介した本がたくさんあります。もちろん、絵本や図鑑、専門書など動物についての本もたくさんあります。ぜひ図書館にいらして、いろいろな本を手にとってほしいと思います。職員一同、皆様のご来館を心よりお待ちしております。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。